

数学

京都大学 [文系] (前期)

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

近年、易しくなっていたが、頻出の解法、作業をそつなくこなす力に加え、思考力、論証力を問う比重が大きくなり、従来からある京大らしさが少し戻ったようだ。

その他トピックス

①、⑤は理系と共通、⑤に誘導の小問がある。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	対数・評価	数学Ⅱ	常用対数を用いた評価	標準
②	場合の数・数列	数学A 数学B	漸化式を立てて解く	標準
③	微分法・積分法	数学Ⅱ	放物線と2接線で囲まれる図形の面積	標準
④	図形と方程式	数学Ⅱ	2次方程式の解から軌跡を求める	標準
⑤	空間図形	数学A	「図形の性質」の利用 (問題文にベクトルはあるが、ベクトルは用いないのが自然である)	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

頻出の解法を身につけた上で、作業をそつなくこなす力を養うこと。さらに、京大で従来から要求されている、問題の構造を把握して方針を立てる力、論理的に考える力、説得力のある解答を書く力を養うこと。誘導の小問を削除した問題で練習することも有効である。